

学芸高生が制作 医療者に感謝込め

命でアート 白衣の廃棄

十全記念病院で作品展

白衣に描かれた絵画作品に見入る白井理事長と齊藤さん。いずれも浜松市浜名区の十全記念病院で



書道コースの生徒たちが手がけた作品



医療者への感謝を込めたハートや、星形のキャンパスの作品

使い終えて廃棄される白衣をアートに。浜松市中央区下池川町の浜松学芸高校の生徒たちが、不要になった白衣を用いた作品の制作に挑んでいる。第1弾として「ライフ」をテーマにした作品展が、11日に浜名区の十全記念病院でスタート。医療を支えてきた白衣が新たな命を与えられて、院内を彩っている。

(河野紀子)

花言葉が「希望」の白いアネモネが、「希望」の白いアネモネが、白衣のポケットから咲き誇る。医療者への感謝を込めた無数のハートマークや、元気をくれる「花」を書きとびで表現した作品も。いずれも芸術科の2、3年生約30人が、半年がかりで制作した。

提案したのは、浜松医科大次世代創造医工情報教育センター准教授の齊藤岳見さん(53)。医師が診察時などに着る白衣は、病院が支給したり、業者からリースしたりしていて、着古して黄ばむ、生地が破れるなどすると廃棄される。「衛生面からきれいに保つ必要がある、大量に捨てられている。何かに活用したかった」という。

アートに再生する案を思い付き、「白衣キャンバスプロジェクト」と銘打って昨夏に始動。地域連携の一環で地元の高校と木材会社、非常勤先の病院に声をかけた。生徒たちは命について考える機会にもなった」と話した。材料の白衣はまだ残っており、来月にクリエート浜松で開く催しに向け、生徒たちは新たな作品を作るといふ。

報道部(直通)

電話 053 (421)6036
FAX 053 (421)5218

天電通信部

電話 053 (925)2540
FAX 053 (922)0003